

令和6年度  
足代小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学習活動を充実し、基礎的・基本的な学習を定着させ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題に対して、真面目に取り組むことができる。漢字の読み書きや音読・四則計算などは、全体的に定着が見られる。 ●意図や目的に応じて文章を正確に読み取る力や、問いを理解し、書く力に課題がみられる。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけることができる。 ・必要な情報を見つけだし、何が書かれているかを把握し、読み取ることができる。 ・課題に合った適切な文章を書くことができる。	・プリント学習に加えてタブレットも併用し、漢字や計算学習を継続的に行う。また、認知機能強化としてコグトレを活用し、学力の素地となる力をつけるためのトレーニングを取り入れたりして、個々の学力に合った個別最適な学びができるよう基礎・基本の定着を図る。 ・ICTを効果的に活用し、作図や体験活動を取り入れることで理解を深めるようにする。 ・読む目的を明確にし、複数の情報の内容を比べ読みするなど、効果的な読みの工夫を取り入れ、読解の手助けとしてアンダーラインや囲み等を活用し、多様な資料から必要な情報を収集できるようにする。 ・日記や作文等の表現活動で書き表し方の例文を提示するなどして適切な文章を書く支援をする。	・引き続き反復学習を継続的に行うことで、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。 ・読み聞かせや昼読書の時間を確保し、様々なジャンルの本が読めるよう学級全体に広げる取り組みを工夫する。		

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、ペアやグループ、全体で意見を積極的に発表・表現したりすることができる。(ICT機器や具体物、ノートを使用して。) ●他者の発表を受けて自分の考えと比べながら聞いたり、根拠を示して説明したりすることには課題がある。	・根拠を示して自分の考えや思ったことを書いたり、話したりできる。 ・自分の考えと比べながら他者の発表を聞くことができる。 ・他者の発表を受けて、自分の考えとの共通点や相違点を見つけることで、自身の学びを深めることができる。	・自分の考えや思ったことをわかりやすく伝える手立てとして、図や思考ツールなどを効果的に取り入れていく。そして、自分の考えをペアやグループ、全体で共有する。 ・児童それぞれの考えを共有する場面を増やし、自分の考えと他者の考えを比べながら再思考し、新たな自分の考えを述べることで学びを深めることができる活動を設定する。 ・自分の考えを表すときには、根拠となる文章(叙述)と自分の意見を結びつけて表現できるような習慣を日々の教育活動の中でつけさせるようにする。 ・話し合いを進めるときには、話型を提示したりポイントを具体的に伝えたりすることや輪番で全員の児童に司会の立場を経験させるなど、実践の中で場の状況に対応して話す力をつけていくようにする。	・条件に即して文章に書いてまとめる機会を授業の中で設ける。手立てとして、書き出しや書き結びを提示したり、書き表し方の例文を準備したりする。 ・小集団や全体で話し合いの経験を積み重ね、他者の発言のよいところや疑問点、共通点や相違点を考えながら聞くように指導する。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業に一生懸命取り組み、自主学習ノート(プラスワン学習)に取り組むことができる。 ●基礎・基本の内容を基に、自分で計画を立て主体的な学習を進めることや振り返りを活用して次時に課題をつなげることに課題がある。	・主体的に学習に取り組む、学ぶ楽しさや喜びを感じることができ自信をもつことができる。 ・学習状況の振り返りをする中で、自らの課題を解決できるよう計画を立て、学習を進めることができる。	・「学びの手引き」にあるノート指導や学習姿勢を徹底し、「めあて」から「まとめ」まで思考・判断する場面を設定し、最後に学習をふり返り自己評価を行わせる。そのために、授業構成や時間配分を考えて振り返りタイムを確保する。また、振り返りのポイントを示し、自分で書いたり、ペアで伝え合ったりさせるなど学習に対する自己理解を深め、意欲が高まるような振り返りをさせる。 ・児童の学習意欲を引き出すためにも、児童の振り返りを活用しながら次時の学習につなげていく。 ・家庭との連携を密にし、保護者と共に家庭学習の習慣化を図り、特にプラスワン学習の意義と仕方の説明をする。	・児童がノートで解決の過程を試行錯誤・表現していることを教師が全体に紹介し、価値付ける。 ・引き続き「めあて」から「まとめ」まで思考・判断する場面を設定したり、学習に対する意欲が高まるような振り返りをさせたりする。		

令和6年度 学力向上ロードマップ

